

研究グループ交換チーム・メンバー募集要項

国際ロータリー第 2800 地区は 2007 年 2 月から 3 月にかけて、インド共和国の第 3080 地区を訪問する研究グループ交換チーム・メンバー 4 名を募集しています。

1. 研究グループ交換とは

研究グループ交換 (GSE) プログラムは、ロータリー財団の職業人向けの教育プログラムです。1955 年にニュージーランドで始まり、1965 年にロータリー財団の正式な教育プログラムになりました。GSE プログラムは、海外の地区と組んで、お互いに GSE チームを受け入れ、また派遣します。GSE チームはチーム・メンバー 4 人とチーム・リーダー 1 人の通常 5 人で構成されます。チーム・リーダーはロータリアンが務めます。

GSE プログラムの目的は、訪問地区のロータリアンの家庭に滞在しながら、約 4 週間にわたり、海外における職業の実態や文化を学び、また意見交換を行います。世界中で毎年約 590 の GSE チームが研修を行なっています。

第 2800 地区は 1994-95 年度からこのプログラムに参加し、これまで米国のコロラド州、オレゴン州、ケンタッキー州、イリノイ州、台湾の台北、ブラジルのミナス・ジェライス州にある地区と GSE チームの交換を行ってきました。当地区から GSE チームに参加された方々の職業は、大学教員、看護師、市役所職員、会社営業スタッフ、会社経理スタッフ、老人ホーム介護職員などさまざまです。

2006-07 年度はインド共和国の第 3080 地区と GSE チームを交換いたします。

2. GSE の特徴

この GSE プログラムにはいくつかの特徴があります。第 1 に、研修の内容はチーム・メンバーの職業と希望に沿って訪問地区が作成することです。チーム・メンバーの希望は、自分の職業に関連して訪問地区で学びたいこと、あるいはその地区でとくに学びたい文化などを記載したメンバーのエッセーに基づきます。第 2 に、訪問地区への往復航空券をロータリー財団が負担すること、また訪問地区に滞在中はホームステイが主になりますが、ホスト・ファミリーはロータリアンが務めてくれることです。したがって、チーム・メンバーが負担するのは、個人的な費用やホームステイ先へのお土産代などです。第 3 に、事前研修を行なうことです。事前研修の目的は、国際ロータリー、訪問地区の文化と生活、日常会話などについて学ぶほか、自分の仕事や会社の事業などを紹介できる資料を作成し、研修効果を高めることです。チーム・リーダーの指導により、出発まで約 10 回の研修を行ないます。

3. 訪問先の地区

国際ロータリー第 3080 地区(インド共和国首都ニューデリーの北、チャンデガール直轄地、ヒマーチャル・プラデーシュ、パンジャブ、ハリヤナ、ウッタランチャル、ウッタル・プ

ラデーシュ各州の1部を含む地域)

4. 訪問期間

2007年2月10日から3月10日までの約4週間

5. 募集人員

チーム・メンバー4名および補欠メンバー1名

6. 応募締切り

2006年8月31日(木)

7. 応募資格

日本国籍を持ち、山形県に在住または勤務する25歳から40歳までの職業人で、少なくとも2年間継続して常勤として雇用されていること、また研修後も勤務する予定であること。雇用主の許可を得て、約4週間のプログラムに参加できること、および出発までに行なわれる約10回の事前研修に参加できること。

ロータリアン、その配偶者、2親等以内の直系卑属でないこと。

8. 参加申請書類

居住または勤務する地域のロータリークラブの推薦を受けて、つぎの申請書類を提出してください。

参加申請書(ロータリークラブにあります)

雇用主の推薦状(自営業である場合には不要です)

エッセー(GSEに参加する理由、自分の職業、学ぼうとする専門的職業、文化などを述べた1200字程度の小論文)

9. メンバーの選考

応募者は選考委員会の面接を受けていただきます。面接の予定日は別途応募者に通知いたします。

メンバーに選ばれた方々は、2006年10月13、14日に酒田で開催される第2800地区大会に参加し、当地区のロータリアンに紹介されるとともに、インドから訪問している第3080地区GSEチーム・メンバーとの交流を行います。

10. 参加者の声

これまでにGSEチームに参加されたメンバーから次のような感想が寄せられています。

「GSEで経験したことは私の教養を深め、大きな財産になりました。貴重な機会を与えてくださった方々に感謝いたします。GSEという素晴らしいプログラムが広くみんなに理解されることを望みます」K氏

「今回の1ヶ月間の研修で学んだこと、経験したことを多くの人々に伝えることも私の役割ではないかと思えます。私の伝える経験が今後の仕事に役立てば幸いに思えます」S氏

「ブラジルの酪農を学ぶことができたことは、たいへん幸せでした。研修期間中に9人のロータリアンのお宅にホームステイしました。言葉の壁はありましたが、皆様には非常に親切にいただき、楽しく過ごすことができました」H氏